

発行／坂城町公民館 発行人／塚田 常昭 編集／広報部 印刷所／滝沢印刷（同）
〒 389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条 2468 文化センター内
TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722



❖主な内容❖

- ふるさと探訪PART114 2～4P
- 第50回坂城町文化祭 5P
- 第67回坂城町二十歳のつどい 6～7P
- お知らせ、館説開畝 8P

リトミック教室ハロウィン

10月26日（水）のリトミック教室に、お気に入りの仮装で参加しました。お菓子入れを作るなど、みんなでハロウィンを楽しみました。

絵図で探訪 江戸時代のさかき

はじめに

今回は、江戸時代の絵図の上でふるさとを探訪してみましよう。千曲川に関連する、年代の違うものを二枚用意しました。古い年代から順にご案内します。

延宝六年千曲川絵図全体図



1. 延宝六年 千曲川絵図

(竹内範雄家文書)

延宝六年(一六七八)に坂木村と五明村との境界争いの際に描かれた絵図(写)です。争点となった柳原が大きく描かれており、実際の距離感とは異なります。当時の坂木村

は、金井村・横尾村・中之条村と共に、越後高田藩領でした。対する五明村は、網掛村・上平村・鼠宿村・新地村と共に松代藩領です。概観すると、千曲川が木の根の様にならねり、大きな中洲ができています。南(上流)

を上にして、東西に支流が描かれています。線で主要な道を、丸囲いで村や集落を描き、山々が周縁に連なります。北の山には「村上義清 山城」とあり、その麓に横吹坂が大きく描かれ、その山肌には千曲川がぶつかっています。現在の

の国道一八号線は明治十年に開通したもので、江戸時代は風が強く険しい横吹坂を通らねばなりませんでした。

細部を見てみましょう。東岸で南北に走っている道は、北国往還です。上から鼠宿村、金井村、横尾村、中之条村、四ツ屋、田町、横町、坂木宿立町、大門町、新町とあり、鼠宿村と四ツ屋の脇に木が描かれています。根元に土の山があることから、一里塚を表していると思われる。一里塚にはエノキやマツが植えられたといいますが、この二つの塚には何が植えられていたのでしょうか。

どちらも現存はせず、伝承のみが残っています。

四ツ屋付近の川岸には、逆さに描かれた社が見えます。千曲川がぶつかる場所にあたるので、水除けの神として伊勢宮を祀っていたのでしよう。千曲川沿岸の地域には、今も伊勢宮が多く見られます。また、社がなくなっても「伊勢宮、伊勢社」など地名に残っていることがあります。それらは、かつてその土地が水害に悩まされたことを物語っています。

千曲川が東に蛇行する地



横吹坂

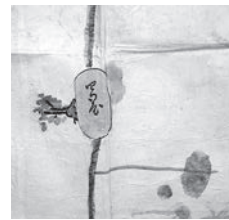
山々には、部分的に木が茂って見えます。これは、御林（幕府や領主が管理・保護する山林）や持林（村や寺社、個人持ちの山林）を表しているのでしょうか。西岸には、千曲川から取り入れた六ヶ郷用水が描かれています。網掛村と五明村の農地を潤しているのは、現在も見られる光景です。五明村付近に小さな丸囲いがあり、「新田」と書



四ツ屋一里塚跡付近



鼠宿一里塚



四ツ屋一里塚

点から横吹まで支流が描かれています。それに沿って「本田」「田」と書き込まれており、農薬用水として利用していたと思われます。

かれています。江戸時代になって開発が行われたことがわかります。この絵図は、残念ながら



鼠宿一里塚跡付近



伊勢宮

上平村や荻屋原地区が描かれていませんが、江戸時代前期の坂城や千曲川に触れることができる貴重なものです。また、坂木宿ふるさと歴史館では、同年の裁許絵図を展示しています。ここで紹介したものとよく似ていますが、坂木宿や馬場などが描かれており、興味深いものです。

2. 寛政九年 千曲川絵図

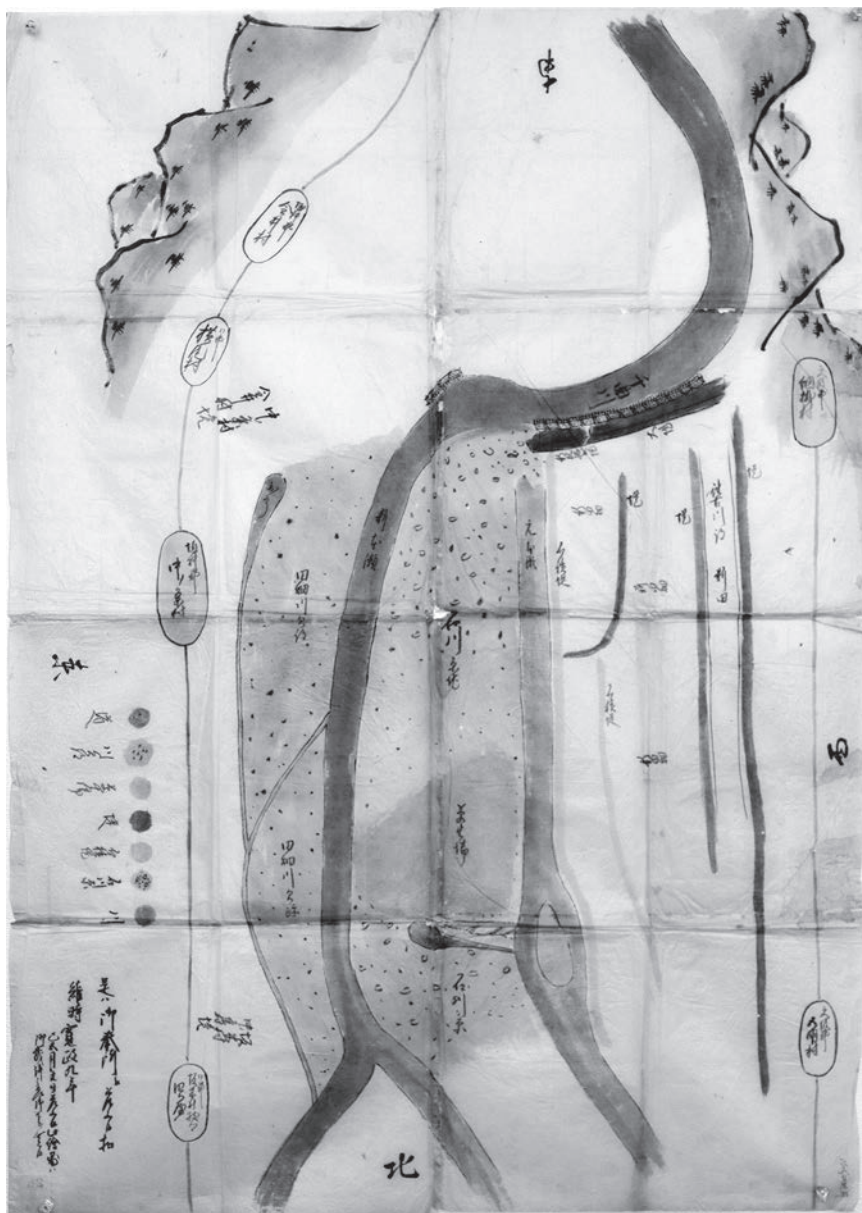
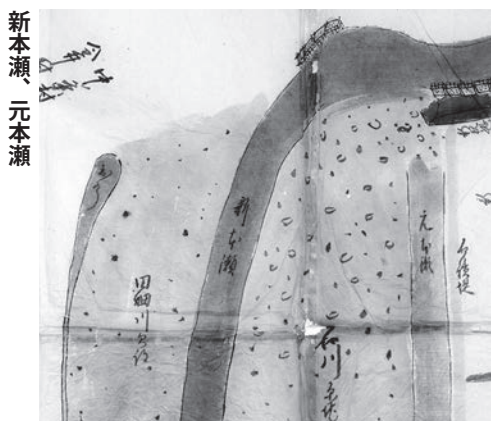
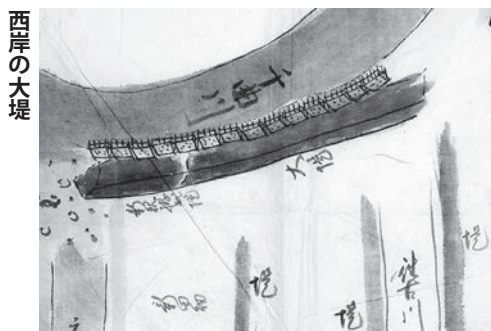
（竹内範雄家文書）

寛政九年（一七九七）に中之条村と網掛村との争論に際して作成された絵図で

す。両村の間の河川敷が大きく描かれています。

1と2の絵図の間には百年以上の開きがあり、その間、寛保二年（一七四二）に戊の満水と呼ばれる千曲川大洪水を経験しています。戊の満水の翌年には、西岸の網掛村、五明村、力石村にかけて、堤防の修築工事がありました。その時に幕府から工事役として派遣された役人・大草太郎左衛門の名から、この大堤防は「大草堤防」と呼ばれました。現在の連続堤防は、こうした江戸時代の堤防を基にしています。

西岸に描かれたいくつもの筋は堤防を表しており、一部は大草堤防と思われる。「堤」「石積堤」と書き分けられ、構築素材の違いがわかります。ひととき大きな横一文字は、「大堤」と書かれ、川表に杵（木杵）を組んで石を入れ、川に沈める水制工）が並んでいます。大堤の脇には石が積み、漁場としたようです。



寛政九年千曲川絵図全体図

この大堤の下流には二本の流れがあり、東は「新本瀬」、西は「元本瀬」です。元本瀬の西は数々の堤により「新田」が広がり、東は「石川原」の間に「草生場」があり、作付けができそうです。大洪水の後の工事は、網掛村に新たな農地をもたせたと見えます。

即座に崩し、元本瀬に流れを戻すよう訴えました。河川敷の僅かな農地でも、村民のくらしにかかわる大問題だったのです。

1、2の両絵図は、中之条村の名主・竹内覚左衛門が控として持っていたものです。1の絵図は、戌の満水より前の千曲川が描かれ

一方の中之条村は、これらの堤工事や漁場のために千曲川の流れが変わり、引き込んでいた枝瀬が新本瀬となつて少々の大水でも農地が荒れるうえ、対岸の中之条村分の農地で網掛村が勝手な作付けをしている、と網掛村を相手に訴訟を起こしました。新本瀬の東に「田畑川欠跡」が広がっています。これは1の絵図の「本田」

「田」の場所だと思われ。中之条村は、漁場の石積みも崩れ、元本瀬に流れを戻すよう訴えました。河川敷の僅かな農地でも、村民のくらしにかかわる大問題だったのです。

おわりに

災害が起こるたび、過去の災害を記した歴史資料が注目されます。令和元年の東日本台風（台風十九号）以降、それらを広く共有し、活用する機運が高まってきました。歴史資料には災害や復旧事業が記録されており、それはそのまま、地域の脆弱性とその対策方法を示唆しています。

坂城町の中にも、これだけ情報量のある絵図が残っていました。文化財センターでは、「古文書等閲覧室」を設け、寄贈された古文書等をどなたでも閲覧できるように整理しています。ホームページに資料目録を掲載していますので、お気軽にご利用ください。

(本間 美麻)

第50回 文化祭開催

～したしむ・つくる・ふれあう・ささえる～

町文化祭を10月22日（土）、23日（日）の2日間、文化センターと武道館で開催しました。

武道館では、書道、盆栽、華道、絵画、レカンフラワー、写真、陶芸、俳句、短歌など様々な分野の作品が展示されました。また、今年度の作品展示には、坂城町国際交流協会がウクライナから避難をしてきた子どもたちが描いた絵を展示し、支援を呼びかけていました。

文化センターで行われた芸能公演では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、入場者を関係者のみに制限しましたが、参加された16団体の皆さんは日頃の練習の成果を発揮され、素晴らしいステージばかりでした。



写真（坂城写友会）



盆栽（愛盆会）



書道（信濃書道会）



ウクライナの子どもの絵



合唱（村上小学校合唱部）



ハーモニカ演奏（坂城ローズガーデン）



仕舞（坂城子ども能楽教室）



車イスダンス（坂城ダンスクラブ）

二十歳おめでとうございます

8月15日(月)坂城町二十歳のつどいを新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じて開催しました。これまで「坂城町成人式」として開催していましたが、2022年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられたことから、「坂城町二十歳のつどい」と名称を変更して開催しました。

町内では、平成13年4月2日から平成14年4月1日生まれの145名が20歳を迎えており、そのうち82名の皆さんが式典に出席されました。

二十歳を迎えられた皆さんのますますのご活躍とご多幸をお祈りしています。

第67回 坂城町二十歳のつどい

実行委員会代表の言葉



宮崎洋輔

第67回坂城町二十歳のつどいの実行委員会代表として、私、宮崎洋輔が挨拶をさせていただきます。

2020年から新型コロナウイルス感染症がまん延し、この二十歳のつどいが開催されるか、多くの方が懸念されていたと思います。しかし、こうしてこの会が開催され、旧友やお世話になった先生方と顔が合わせられたことを大変嬉しく思います。

山村町長様、清水教育長様、我々が坂城中学校を卒業する際、教頭先生として務めてくださった塚田公民館長様をはじめ、この会の開催に携わってくださった皆様、そして、わざわざ私たちのために集まってくくださった元担任の先生方に心より感謝申し上げます。

中学校を卒業してから5年が経ち、一人一人が様々な進路に向かっていきます。今があるのも、これまで私たちがあらゆる角度から支え、応援してくださった皆様のおかげだと思っております。これから、皆様にはまだまだ支えていただくことがあるかと思いますが、その際はどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今この場に集まってくくださったみなさん、私も含め20歳、おめでとうございます。

坂城町の二十歳のつどいは、他の多くの地区とは異なり、夏に行われます。全員が20歳になり、こうして顔を合わせられること、嬉しく思います。中学校を卒業してから各々が自分自身で決めた進路へ向かいました。そこで様々な出会いや経験があり、中学生の時の面影よりもまた新しく、そして新しすぎず懐かしさを感じることでしょう。

今回、私が実行委員会

の代表としてみなさんの前で挨拶をさせていただく時に、なにを話そうか考えました。その時に思い浮かんだのが、この坂城町のことでした。当ではまらない方もいらっしやるかもしれないませんが、少なくとも中学校を卒業するまでの15年間、私たちはこの坂城町で育ちました。私は中学校を卒業した後、佐久長聖高校に入学し、寮生として3年間の高校生活を送りました。その3年間で思ったことは、家がある坂城町に帰ってきた時、なぜか安心がありました。自然が多く、季節にも恵まれたこの坂城町が安心する場所だと思ったのです。15年間お世話になった

この坂城町には親しみがある場所だと言えます。そんなことを考えていると、みなさんに知って欲しいことができました。それは坂城町に帰ってきて欲しいということですが、もちろん、「ずっといてくれ。」とまでは言いません。各々が自分自身で決めた道に進むことは素晴らしいことです。しかし、その自分の道を進んでいる時に、私は、みなさんにこの坂城町を思い出してもらいたいのです。学生や社会人になると、壁に直面する機会が多くなると思います。心が折れてしまったり、前向きになれなかったり、自分を責めて気が塞ぎ込んでしまったりしてしまうこともあるでしょう。そんな時に、この坂城町を思い出して欲しい。帰ってきて欲しいと思っています。

こんな話があります。

あるところにお金持ちの家庭がありました。父と母、息子2人と何人かいる使用人がいる豪邸です。その家では父が亡くなった後の遺産は、長男が7割、次男が3割貰うことになっていま



恩師の先生方



した。ある時、次男が父親に言いました。「お父さん、私がいただくことになってる財産を今、私にください。」そう言われた父は、次男に言われた通り財産を渡しました。それから数日も経たないうちにその次男は自分の荷物をまとめ、家を出て行きました。出ていった先では次男は余るほどある財産をふんだんに使い、楽しい時間を何日も過ごしましたが、お金は有限ではありません。とうとう全て使い終わってしまいました。そのとき、次男が過ごしている地域にひどい飢饉が訪れ、着る服も汚くなり、食べるのも困難になってしまいました。そして、その地方の住民の家にお邪魔し、家畜の世話をするともそこに寝泊まりしてました。そうしているうちにようやく次男は気がきました。「わたしはなんてことをしたのだろう。父の家には食糧もあり、雇人も多くいる。それなのに私は今、飢えて死のうとしている。父のところに帰ろう。そうして父に謝り、雇人として働かせてもらおう。」こうして次

男は我にかえり、家に向かいました。向かっていると、家はまだ遠く離れているのに、父はずっと彼を待っていたのでしよう、次男を見つめ、走って彼の元へ行き、抱き寄せました。次男は言いました。「お父さんごめんください。私はあなたに悪いことをしてしまいました。息子と呼ばれる資格はありません。私を雇人として家に置いてください。」しかし、父は僕を呼んでこういいました。「早く最上の着物を彼に着させ、履き物を履かせなさい。そして最上の牛を屠つてきなさい。食べて楽しむのではないか。息子が生きて帰ってきてくれたの

だから。」それから祝宴が始まりました。

安心するところとは、このような場所ではないでしょうか。ホームタウンという場所はある場所なのではないでしょうか。homeとhouseは同じ家という意味の英語ですが、内容は違います。houseは家の形を指しますが、homeは帰る家のことを言います。15年間過ごしたこの坂城町は、我々のホームタウンです。帰ることが出来る場所です。ここには、話にもあつた父のように、迎えてくれる人、支えてくれる町の人、景色、自然、そして家族がいます。辛い時や苦しい時、倒れそうな時があれば、是非、坂城町を思い出し、帰ってきて欲しいと思います。

繰り返しになりますが、皆様、20歳おめでとうございませう。社会人としてもまだまだ未熟な私たちですが、坂城町に支えられ、大人としての成長、活躍をお祈り申し上げます。以上をもちまして、実行委員会代表の挨拶とさせていただきます。

500字リレートーク

コロナ流行の中での自分の仕事への思い

濱崎 千栄子

私は、坂城町でヘルパーをしています。ここコロナの流行によつて、様々なことを体験しました。まず、感染症のことを学び、対処する方法として、うがい手洗いはもちろん、予防服、一段階上の防護服への着脱方法、消防署の方の講習を全員で受けたり、また、訪問する家の方がその姿を見る反応に対処したりと、みんな一生懸命にやってきました。会社の上司の方々の御苦勞様の声に支えられたり、一緒に働く人々と励まし合ったりして、明日も頑張ろうという気持ちで一致してチームプレーなんだとしみじみ感じました。信頼し合える関係は大切。良い人達と仕事していると感謝しています。もちろん仲間も幾人か感染しました。でも、その中の声にも感動しました。上司の方に「私が至らなくて、すみませんでした」と出社して来て語っていて「そんな事はないよ、あなたのせいじゃないよ」と上司が話され、温かいものを感じました。本当にその時の会話は忘れません。心に満ちあふれているものの中から人は語るものだと思います。その時、母が幼い時から語っていた言葉が思い出されました。「実れば実るほど、頭を垂れる稲穂かな」という言葉と「人のふり見て我がふり直せ」という言葉です。「謙遜でありなさい。へりくだつた思いを持ちなさい。また、人を見て良くない不快なことはやらない。良いことをしなさい」ということだつたと思います。今も教訓として残っています。職業柄、様々な境遇を持たれる方と接します。一人ひとりに向き合い、その方の人となりに敬意を払いつつ寄り添い、励まし、慰め、笑い、共に泣き、築き上げる為に言葉を用い、最新の技術を学びながら、続けていこうと思つています。

次は、宮原澄子さんです。



職場から見える景色

お知らせ

新型コロナウイルス感染状況等により、中止・変更となる場合があります。

第56回坂城町書初展

会場都合等により、席書大会は開催しません。

日時 令和5年1月4日～6日
○4日(水) 15:00～16:00
○5日(木) 9:00～16:00
○6日(金) 9:00～10:00

会場 坂城町文化センター
申込締切 12月15日(木)
申込場所 坂城町公民館(文化センター2階)
※申込書は町HP、坂城公民館にあります。
※小中学生は各学校で取りまとめます。

第52回坂城町元旦マラソン大会

日時 令和5年1月1日(日)
受付 9:00 開会式 9:30
競技開始 10:00
会場 坂城町武道館南駐車場(受付・スタート)
申込締切 12月15日(木)
クラス(定員) ・親子ペアの部…1.5km(25組)
・小学生の部…1.5km・3km(各50名)
・一般の部(中高生含む)…1.5km・3km(各50名)
申込場所 教育文化課生涯学習係(文化センター2階)
※町内在住者限定の事前申込による定員制とします。
※雪・雨天の場合は中止となります。
※詳細は、右のQRコードから公式HPをご覧ください。 [公式HP]

今後の行事予定 新型コロナウイルス感染状況等により、中止・変更となる場合があります。

- | | | | |
|----------------------------|-----------|-----------|----------|
| ◆人権を尊重し豊かな福祉の心を育む町民集会 | 12月 3日(土) | ◆子ども茶の湯教室 | 3月 4日(土) |
| ◆第29回ライフ・ステージエコ | 12月10日(土) | ◆坂城町囲碁大会 | 3月12日(日) |
| ◆スキー・スノーボード教室(対象:小学校4年生以上) | 1月15日(日) | ◆坂城町将棋大会 | 3月19日(日) |

館説 開 敵

季節は少し戻りますが、九月中旬から下旬にかけて咲く花に、彼岸花があります。お彼岸の頃に咲くことから、この名前がついたとも言われています。

彼岸花には、たくさん別の別名があります。一番多く耳にするのは「曼珠沙華(マンジュシヤゲ)」ではないでしょうか。「曼殊沙華」とは、 Sanskrit 語で「天界に咲く花」「見る者の心を柔軟にする」を意味するそうです。他には、『彼岸』から『死』を連想させることから、「死人花(シビトバナ)」や「幽霊花(ユウレイバナ)」という少し気味悪い名前もあります。変わったところでは、「葉見ず花見ず(ハミズハナミズ)」があります。みなさんは、彼岸花が咲いている時に、彼岸花の葉を見たことがありますか?長い茎の上にポツンと花だけが咲いているイメージがありませんか。彼岸花は、球根から花が出てきて、その花が枯れた後に葉が成長します。そのため、花と葉を同時に見ることができません。花が枯れた今の時期から、葉を繁らせ球根に栄養を貯えています。春には葉が枯れ、秋に花を咲かせます。そんな特徴から、「葉見ず花見ず(ハミズハナ

ミズ)」という名前が付けられました。彼岸花は、人里に近い川岸、田の畔道や畑の土手などに群生しています。人の手によって植えられたものもたくさんあります。彼岸花の花・茎・葉・球根などすべての部分に毒があります。特に球根には強い毒があります。彼岸花が土手や畦道に植えられたのは、その毒でモグラやネズミから稲や野菜などの農作物を守るためだと言われています。また、墓地の周りに彼岸花が植えられているのも、墓地を荒らされないためだという言い伝えもあります。ちなみに、凶作が続く飢饉があった時代には、飢えをしのぐために、強い毒のある球根を食べていました。球根をすりおろし、何回も水にさらし、毒を抜いていたようです。(危険ですので、絶対に口にしないでください。『死』を連想させる花が、命をつなぐために役立っていました。

このように人の役に立っていた彼岸花ですが、そのイメージから気味悪い花と思われるようになりました。イメージにとらわれるのではなく、事象の本質を知ることがとても大切になります。私たちが様々な事象に接した時、「曼殊沙華」の名前のようにあなたにイメージを持ち、事象の本質を見ていきたいものですね。

(参照:リクルート)
(T・T)

